彙　　報

昭和年49年度　第 6 回委員会

日　時：　昭和 49 年 12 月 9 日（月）

場　所：　学士会館分館

出席者：　（委任状提出者を含む。〈　〉は委託者）

大江孝男，大東百合子，小沢重男，岸本通夫，日下部文夫，江実，佐藤則之，柴田武〈池上二良，泉井久之助，井上和子，梅田博之，北村甫，佐藤純一，田中利光，田村すゞ子，千野栄一，土田滋，長谷川欣佑，蛭沼寿雄，堀井令以知，南不二男，三根谷徹〉，徳川宗賢，服部四郎，前田護郎，湯川恭敏；白紙委任〈今川太郎，松田伊作〉；柘植洋一，藪司郎（幹事）

欠席者（委任状未提出者及び委任状無効者）（*は海外在住又は出張中）

*上村幸雄，大竹敏雄，大野晋，*国広哲弥，小泉保，阪倉篤義，塩谷饒，関根正雄，*藤村靖，松平千秋，松本克己。

議　事：

1) 第5回委員会の議事録を訂正し確認した。

2) 会則をめぐって会員総会で述べられた意見について検討した。

3) 会則等の補正文を確認した。

4) 会長・委員選挙の細則（案）を検討し，細則の成案を得た。

5) 来年度の大会の開催について春（6月中旬）は関西学院大学，秋は京都産業大学で行うことになった。

6) 九学会連合の共同調査について徳川理事から報告があった。

7) CIPL についての野上素一代表からの報告書を配布したことについて説明し，なおそれについての服部委員からのコメントがあった。

8) 会費の催促と確認を会長・委員選挙にそなえて11月1日付で行った事を報告した。

9) その他

言語研究の編集・印刷状況について藪幹事より報告があった。

幹事の会費免除について確認した。

第 7 回委員会

日　時：　昭和 50 年 3 月 31 日（月）

場　所：　学士会館本館

出席者：　(委任状提出者を含む。〈 〉内は委託者)

池上二良，大束百合子，岸本通夫〈今川太郎〉，日下部文夫，江実，佐藤則之，柴田武〈泉井久之助，北村甫，小泉保，佐藤純一，田中利光，土田滋，蛭沼寿雄，堀井令以知，前田護郎，松田伊作，松本克己〉，徳川宗賢，長谷川欣佑，服部四郎〈井上和子，梅田博之，大竹敏雄，阪倉篤義，田村すゞ子〉，湯川恭敏〈大江孝男〉，白紙委任〈三根谷徹〉；柘植洋一（幹事）

欠席者：　(委任状未提出及び委任状無効者) (* は海外在住または出張中)

*上村幸雄．大野晋，小沢重男〈北村甫に委任〉，*国弘哲弥，塩谷饒，関根正雄，千野栄一，*藤村靖，松平千秋，南不二男。

議　事：

1) 昭和49年度第6回委員会議事録を確認した。

2) 新委員に選出された69名のうち，関根正雄氏（辞退），松平千秋氏（退会）を除いた67名が新委員として確定した。

3) 昭和50年度の春の言語学会大会は6月14，15日両日に，関西学院大学で行われることになった。

4) 常任委員等の選挙について

移行措置として，さきの会長・委員選挙の選挙管理委員が原則として常任委員等の選挙を管理することになった。それに新たに日下部文夫氏，長谷川欣佑氏が加わり，大束百合子，日下部文夫，江実，佐藤則之，柴田武，長谷川欣佑，服部四郎の7名で選挙管理委員会を構成することになった。

また，選挙規則は会長・委員選挙の選挙規則を準用することになった。

5) 言語研究の編集状況について柘植幹事より報告があった。

6) 第12回国際言語学者会議は，1977年8月ウィーンで開かれる旨の，野上素一代表からの報告が紹介され，CIPL 執行委員の服部四郎氏もこれを確認した。

7) 聴覚障害児教育国際会議の準備進行状況について佐藤則之委員より報告があった。

第 1 回　会長・委員の選挙の実施経過について

1. 昭和49年12月16日選挙管理委員会の成立

前例に従い評議員および幹事で選挙を管理することになったが，特に次の評議員諸氏に管理委員をお願いすることになった。

井桁貞敏，亀井孝，江実，柴田武，長谷川松治，服部四郎

他に，次の三氏をオブザーバーとして委嘱することになった。

大束百合子，佐藤則之，徳川宗賢

同日，委員の互選により服部四郎氏が委員長となった。委員会は選挙日程，投票用紙等の様式などを決定した。

2.　1月上旬に，12月末の会員名簿により各地区の委員定数を次のように決定した。

北海道	2名
東北	2
関東	35
中部	7
近畿	16
中国・四国	4
九州・沖縄	3
計	69名

3.　選挙は次のような日程で行なった。

1月28日　投票用紙等を各会員に発送
2月18日　投票しめきり
3月4日　開票

4.　選挙結果は次のとおりである。

◇投票者総数　208　　有効投票者数　192

◇会長選挙

会長に対する投票者数　185　　有効投票者数　172

会　長：　服部　四郎　86

次　点；　泉井久之助　37　　次々点：　柴田　武　24

◇委員選挙

委員に対する投票者数　192　　有効投票者数　170

1)　北海道（2名）……池上二良，井上史雄

2)　東　北（2名）……佐藤喜代治，長谷川松治

3)　関　東（35名）……井桁貞敏，井上和子，梅田博之，大江孝男，大東百合子，奥津敬一郎，小沢重男，亀井孝，川本茂雄，北村甫，金田一春彦，日下部文夫，國広哲弥，倉石五郎，江実，小林英夫（東京都），佐藤純一，佐藤則之，柴田武，鈴木孝夫，関根正雄，田村すゞ子，辻直四郎，徳川宗賢，徳永康元，中島文雄，野上素一，服部健，林大，原田信一，平山輝男，三宅鴻，矢島文夫，湯川恭敏，頼惟勤

4)　中　部（7名）……岩井隆盛，小泉保，小島公一郎，佐藤茂，野村正良，日野資純，吉町義雄

5) 近 畿（16名）……池上禎造，泉井久之助，岩倉具実，楳垣実，長田夏樹，岸本通夫，五島忠久，阪倉篤義，崎山理，寺村秀夫，林栄一，蛭沼寿雄，堀井令以知，松平千秋，村山七郎，山口秀夫

6) 中国・四国（4名）…関本至，藤原与一，桝井迪夫，吉川守

7) 九州・沖縄（3名）…大江三郎，早田輝洋，松田伊作　（以上50音順）

5. 3月31日の第7回委員会において，関根正雄氏が委員を辞退し，松平千秋氏が退会したため，委員総数は67名と決定した。

第1回　常任委員，編集委員長，会計監査委員の選挙の実施経過について

1. 第7回委員会において次の諸氏を選挙管理委員に決定した。
井桁貞敏，大東百合子，日下部文夫，江実，佐藤則之，柴田武，長谷川松治，服部四郎
互選の結果，委員長は江実氏に決定した。

2. 選挙は次のような日程で行なった。
4月5日　投票用紙等を各委員に発送
4月21日　投票しめきり
4月28日　開票（常任委員，編集委員長，会計監査委員の順で行なった）

3. 選挙結果は次のとおりである。
常任委員〔投票者総数ならびに有効投票者数　53〕
A　大地区（北海道・東北）：池上二良〔任期2年〕
B　〃　（関　東）：江　実，長谷川欣佑〔以上任期2年〕
梅田博之，大東百合子〔以上任期1年〕
C　〃　（中部・近畿）：西田竜雄〔任期2年〕，崎山理〔任期1年〕
D　〃　（中国・四国・九州・沖縄）：早田輝洋〔任期1年〕
編集委員長〔同　上　52〕：
柴田　武
会計監査委員〔同上　51〕：
日下部文夫，佐藤則之

昭和50年度第1回常任委員会

日　時：昭和50年5月17日（土）午後2時～9時
場　所：日本言語学会事務局
出席者：服部四郎，池上二良，梅田博之，大東百合子，江実，崎山理，西田竜雄，長谷川欣佑
欠席者：早田輝洋（委任状あり）

議　事：

1)　新会則制定の過程における申し合せに基づき，常任委員会開催地の地区以外からの出席者に対し，旅費及び宿泊費を支給することに決定した。

2)　常任委員，編集委員長および会計監査委員の選挙結果について，会長より報告があった。

3)　九学会連合の「奄美」共同調査に本会から委嘱した調査委員，および一般にこの種の調査委員等が非会員である場合には必ず会員になってもらうことを申し合わせた。

4)　第70回大会の細目を決定した。

5)　会費納入は銀行振込（富士銀行本郷支店普通預金No. 241056 日本言語学会）または郵便振替（東京 8-99683 日本言語学会）によるものとし，現金書留の受入れは廃止することとした。ただし。大会当日の現金による会費納入は受付ける。

6)　従来，学会の事務は東京大学文学部言語学研究室および，大修館内本会事務所で行なってきたが，将来会長が種々の地区から選出され得るので，会長から次の提案がなされ検討の結果了承した。

イ　会長のもとに事務局を設け事務は専らそこにおいておこなう。

ロ　大修館内本会事務所はパーマネント・アドレスとして保持するが，無人化する。

ハ　以上のことを実施可能にするために

a.　『言語研究』の発送は発送屋にうけおわせる。

b.　バックナンバーの販売は今後大修館に委託する。

c.　なお，郵便振替は，事務局の住所変更届さえ出せば，事務局がどの地区に設けられても東京ナンバーはそのまま保持できる。

7)　会長より会費納入状況について，本年に入ってからの納入者が百数十名に達したけれども，依然として未納者が多数にのぼるので納入状況改善のための方策が必要であるとの説明があった。

8)　本会の財政状況を改善するために，会長より言語学夏期講座開催提案があった。

9)　寄贈を受けた図書の扱いについて検討したが，この問題は次回に結論をもちこすことにした。

10)　第1回委員会の議題等について検討した。

11)　柴田前委員長と柘植前幹事が午後5時半より出席し，会計決算報告案および添付書類計12点を会長および常任委員にそれぞれ一部ずつ配布し，会計引継ぎを行なった後，退席した。

第 70 回日本言語学会大会

昭和50年6月14，15日，下記の通り開催。大会運営委員長は蛭沼寿雄氏。

14日（土）　関西学院大学第4別館 202 号室

公開講演（午後2時より）

プリ・イタリック諸言語の位置　蛭沼寿雄

会長就任講演

古い言語学と新しい言語学　服部四郎

15日（日）　上に同じ

研究発表（午前10時～12時）

1） 日本語とドラヴィダ語における人体語　藤原　明

2） 現代朝鮮語の大過去について
——その文法機能と日本語への訳出上の問題点——　玉城繁徳

3） 朝日辞典編纂上の諸問題について　北嶋静江

会員集会（午後1時～2時）

研究発表（午後2時～5時35分）

4） 日本語の否定の範囲　佐川誠義

5） タガログ語における "Linker" に関する一考察　森口恒一

6） ヤウニュスへのソュールの書翰
——リトアニア語のアクセントをめぐって——　村田郁夫

7） 印欧語における統語的構造の変遷
——比較・類型論的考察——　松本克己

8） Klaus Brinker の「テキスト言語学批判」について　平川信弘

故熊沢竜先生を偲んで

河野六郎

本会の評議員を永く務められた熊沢竜先生は昭和49年2月28日，忽焉として逝去された。

熊沢先生は東京高等師範学校および東京文理科大学において国語学を専攻され，殊に故神保格先生の指導の下に言語学の研究に従事し，卒業後，二年間にわたってフランスおよびドイツに留学，その見聞を広められた。昭和24年の東京教育大学文学部の開設に当って，新設の言語学科の初代の主任教授としてその基礎拡充に尽力され，昭和39年3月定年退官されるまで熱心に学生の指導に当られた。その間，先生は同大学の図書館長ならびに文学部長の重任を果された。

先生は言語に深い愛着を懐かれ，透徹した哲学的洞察を持たれていた。その一端は本会誌「言語研究」第24号に寄せられた論文「言語行動と意味」にも十分覗われる。

先生が国語教育の発展に尽瘁されたことは周知のことであり，晩年，日本国語教育学会の理事長として活躍された。また国語審議会委員を二期務め，我が国の国語政策の推進に寄与されたことも人の知る所である。

先生は稀に見る寛厚な方であった。たえず微笑を湛えた白髪の温容は人の心を魅きつけずにはおかなかった。我々後輩や門弟の，親しくして頂いた者にとってその御人徳は忘られないものがある。

酒に真あり，とか。先生の，あの陶然たるお酒はあまりにも有名であるが，文章もまた先生のお人柄を髣髴たらしめるに足りる名文であった。このようにこくのある方はもう見られないのではないか。先生の御冥福を祈って哀悼の意を表する次第である。　(昭和50年8月28日)

◇寄 附

岸本 通夫 1,000円（昭和50年6月14日）

◇寄贈図書リスト（昭和50年4月1日より同8月8日まで）

人類科学 27（共同課題 沖縄），1974年度年報 九学会連合

国語学 101，1975年6月 国語学会

計量国語学 73，1975年6月 計量国語学会

人類学雑誌 82：4，1974年12月；83：1，1975年3月 日本人類学会

東方学 50，1975年7月 東方学会

日本民俗学98，1975年4月；99，同6月 日本民俗学会

宗教研究 223，1975年5月 日本宗教学会

朝鮮学報 75，1975年4月 朝鮮学会

法政大学文学部紀要 20，1975年3月 法政大学文学部

アジア・アフリカ言語文化研究所 通信 23，1975年3月 東京外国語大学

新潟大学教育学部紀要 16，1975年3月 新潟大学教育学部

大阪教育大学英文学会誌 20，1975年3月 大阪教育大学

ノートルダム清心女子大学国文科紀要 8，1975年3月

ノートルダム清心女子大学（岡山）

広島大学文学部紀要 34，1975年3月 広島大学文学部

同上 特輯号 1，2，3，1975年2月 同上

内海文化研究紀要 3，1975年3月 同上

文化系文献目録 XXIII イタリア学編 上，1975年3月 日本学術会議第1部

国際哲学人文科学協議会活動要覧，1975年3月 日本学術会議

科学研究者の地位に関する勧告——全文と解説——，1975年7月

日本科学者会議

カナノヒカリ 634，635，1975年6月，7月 カナモジカイ

Lenguaje—Publicacion Trimestral—, Vol. 2, No. 5, Marzo, 1973, Cali, Colombia.

Logos—Revista de Humanidades—, No. 10, Octubre, 1974, Universidad del Valle, Cali, Colombia.

Russkij Jazyk v Shkole 3, 1975, Izdatel'stvo "Prosveschenie".

Russkaja Literatura, 2, 1975, Akademija Nauk SSSR, Institut Russkoj Literatury.

Movoznavstvo, 3 (51), 1975, Akademia Nauk Ukrains'koy RSR.

Ukrainska Mova i Literatura v Shkoli — Schomisjachnij Metodichnij Zhurnal Ministerstva Osviti URSR —, 5, traven' 1975; 6, cherven' 1975.

Nashe Rech 5 — Ústav pro Jazyk Chesky —, Rochník 57, 1974, Academia, nakladatelslví Cheskoslovenské academie věd.

Slovo a Slovesnost, 1, XXXVI, 1975, Cheskoslovenská akademie věd.

Archív orientální (Ar Or) — Quarterly Journal of African, Asian and Latin American Studies — 1, Vol, 43, 1975, Academia Praha.

Sborník Prací Filosofické Fakulty Brněnské University, A 21, Rochník 1973 Annus.

Cíl, obsah a metody vyuchování cizím jazykum /Chestmír Lishkar/ Universita J. E. Purkyně, 1973.

Literature Music Fine Arts—A review of German-language research contributions on literature, music and fine arts, with bibliographies, German Studies · Section III, Vol. VIII, No. 1, 1975, Eugen Göbel, Tübingen.

Abstracts of Bulgarian Scientific Literature, Linguistique et literature, 1 & 2, 1974, Bulgarian Academy of Sciences, Scientific Information Centre for Natural, Mathematical, and Social Sciences.

◇ 本誌は文部省昭和50年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。